東京工業大学創立130周年記念
「ぐるなび」食の未来創成寄附講座
食文化共同研究会 公開講義シリーズ(1)

食の選択に影響を与える文化的要因
―文化人類学的アプローチから―

開催日時 平成24年2月20日（月）　14:30～17:50

テーマ

- 14:40～16:10
  阿良田 麻里子（「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 特任助教）
  空腹を満たすもの、自意識を満たすもの
  ―食の持つ精神的・社会的機能（インドネシアの事例を中心として）―

- 16:20～17:50
  マリア・ヨトヴァ 氏（国立民族学博物館　外来研究員）
  伝統食品をめぐる社会変化と意識の変容
  ―ブルガリアのヨーグルトを事例として―

会　場 東京工業大学　田町キャンパス
キャンパス・イノベーションセンター　711号室

JR田町駅 芝浦口 徒歩1分
〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

＊ 会場には駐車場はございません。
車でのご来場はご遠慮ください。

申込方法 氏名・所属・連絡先をご明記の上、下記メールアドレスにてお申し込み下さい。

gnavi.titech.kifu@gmail.com

定員:30名（要申込・参加無料・申込締切2/15）

尚、申し込み受付のお返事は致しません。定員が超過してお断りする時のみご連絡します。
お申し込みの際に頂きました個人情報は、本講演会の参加者管理の目的以外には使用致しません。
＊ 事前申し込みをしていない場合でも、当日、会場に余裕があれば参加していただけます。

＜問い合わせ先＞
東京工業大学大学院　イノベーションマネジメント研究科
「ぐるなび」食の未来創成寄附講座
TEL：03-3454-8705／FAX：03-3454-8973（担当：成田）

主 催：東京工業大学 大学院 イノベーションマネジメント研究科「ぐるなび」食の未来創成寄附講座　食文化共同研究会

● 13:30～

開場、受付開始

● 14:30～14:40

高井　陸雄（「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 特任教授）

開講の辞

● 14:40～16:10

阿良田 麻里子（「ぐるなび」食の未来創成寄附講座 特任助教）

空腹を満たすもの、自意識を満たすもの

―食の持つ精神的・社会的機能（インドネシアの事例を中心として）―

概要:

食の持つ精神的・社会的機能のうち食の選択に大きく関わる要素を、事例を通して考える。広大な国土と多くの民族文化をもつインドネシア。そこには、おもに主食とされるものさえ異なる地域があり、また宗教の違いによってさまざまな食のタブーをもつ人々が暮らしている。異なる文化的背景は、食嗜好の違いを生むだけでなく、満腹感のような一見生理的な作用にも影響を与える。一方、都市部では、民族文化の違いを超えて互いに似たライフスタイルを持つ人々がいる。特に2000年代なかば以降に顕著に見られる外食行動や外来の食物に対する態度の変化は、学識豊かで知的好奇心にあふれ、行動力と経済力のある人物にふさわしいものとして、民主化後の目覚ましい経済成長の中で厚みを増す新中間層の人々の自意識を満たしているとも言える。

● 16:20～17:50

マリア・ヨトヴァ 氏（国立民族学博物館　外来研究員）

伝統食品をめぐる社会変化と意識の変容

―ブルガリアのヨーグルトを事例として―

概要:

世界有数のヨーグルト消費国ブルガリアでは、ヨーグルトは食生活に欠かせない食べ物であるだけでなく、文化遺産の重要な一部とも考えられている。しかし、社会主義体制の崩壊、EU加盟という大きな社会変化を経験する中で、ヨーグルトに対する人びとの意識は変容を遂げつつある。ブルガリア桿菌をめぐる研究、明治乳業をはじめとする外国企業への技術供与とライセンス契約、国営企業の民営化と外資企業の進出といった動きを追いながら、企業経営者、研究者、為政者、伝統文化の継承者の生み出した言説を通して、ブルガリア社会におけるヨーグルトの意味づけの展開を考える。